

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0192200020), 法人名 (社会福祉法人黒松内つくし園), 事業所名 (グループホームつくしんぼ), 所在地 (北海道虻田郡倶知安町南3条西1丁目17), 自己評価作成日 (令和3年3月4日), 評価結果市町村受理日 (令和3年8月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、倶知安町の中心部にあり建物内外部から四季折々に美しく移り変わる羊蹄山をご覧になられながら、家庭的な暖かい生活をお送ることが出来る事業所です。また、1階部分には障害をお持ちの方の就労支援の場として喫茶店を営業しております。喫茶店には沢山の図書があり、同時にお子様をお持ちの方でも安心して利用して頂けるようにキッズルームも完備されております。その他にも地域交流スペースがあり、地域の方の会合や会議等に使用され、多くの地域の皆様方のご来店がございます。利用者様は、地域の皆様方との交流の場として、ご家族様との団療の場として、ご自分の余暇時間の場として、ご自分のライフスタイルに合ったご利用が可能となっております。職員は事業所の基本理念の下、利用者様1人ひとりの思いを大切に、利用者様個人のニーズに合ったサービスの提供に努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0192200020-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.ホームの環境と介護設備等：倶知安町の中心を走る国道5号線沿いにあり、交通・ドラッグストア等、生活も至便な環境。介護・生活設備の充実と清潔さ、多様な生活プログラムがある。2.職員の姿勢・態度：職員は施設長を中心に各職位相互のチームワークが良く、笑顔や優しさを旨に真摯な対応に努め、資質向上の研鑽に励んでいる。3.家族等の満足度：介護の手厚さ、真摯で丁寧な対応、迅速な連絡・報告、日行事、食事への気遣い等、配慮ある支援に満足と好感を示している。4.運営推進会議開催状況：通例では、家族、地域関係者、行政等の参加を得て、定例に開催しており、日常の多様な行事等の生活状況を説明し、参加者の意見を運営に反映している。5.地域組織・機関等の連携：運営の基本に地域貢献を据え、地域組織との連携に努めるとともに、利用者と近隣住民との日常的な交わりなどに配慮している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・事業所基本理念と、ケア理念については毎朝ミーティング時に唱和を行っている。当法人の職員倫理綱領並びに、俱知安地区の職員宣言については、月一度のグループホーム会議や俱知安地区全体会議等で参加職員全員で唱和を行っています。	事業所独自のケア・基本理念、法人の倫理綱領を唱和し、掲示する事で日常的に振り返り、理念の実現に向けて職員間で共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	非常災害訓練や運営推進会議、つくしんぼ祭りには町内の活動団体や町内会の方の参加や協力を依頼しています。また1階部分が喫茶店を営業しており、日常的に地域の方々と交流を図っております。	地域交流を念頭に、積極的に町内活動や行事等に参加している。コロナ禍においても、関係が途切れないよう、お便り、推進会議録等でホームの近況を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事に参加をして頂いたり、通年してボランティアの受け入れ、広報活動を行っております。また、グループホームで企画運営する介護教室(事業所紹介・交流会)や中学校、高校の実習受入等も行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご助言頂きましたことについては、その月の会議にて報告を行い、ご助言に対する対応や対策など検討する機会を設けています。	通例では、家族代表、町内会、行政から参加を得ながら、定期的開催している。開かれた事業所として、議題には運営状況やヒヤリハット・事故報告等を挙げ、参会者から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居待機中の情報交換や打ち合わせの機会を設け、意見の交換などを行っております。また入居待機者ではない方も生活の場の検討、相談協力をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、いつでも面会をして頂けるよう施錠はせず閉鎖的な施設にならないよう努めております。夜間に関しては、利用者様の安全を確保するために事業所内玄関の施錠を行っています。また、居室部分に関しては施錠機能がありません。また身体拘束適正化委員会も設置し運営推進委員と協働して身体拘束防止に努めています。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。不適切なケアについて、具体的な事例を経過から終息まで確認出来るよう様式を作成し、繰り返す事のないよう職員間で協議し、運営推進会議においても報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の対応に合わせた虐待等がないか会議時や運営推進会議開催に合わせて検証。また職員面接時には声掛けの方法やご利用者と接し方等も助言している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の会議時、市民後見人制度等含めて情報収集している。また、活用についても町担当者と協議しながら進めた実績があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う場合は、常に疑問点や、質問事項について確認を行い、そのような場合には、ご理解や納得頂けるような説明等、ご利用者様やご家族様にも解りやすい説明に心掛けております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に日々のサービスや生活について、運営推進会議や、家族参加型の行事の際に意向を確認しています。その結果をもとに今後のサービス提供について検討を行い日々の業務の見直しなどを行っています。	写真を添えたお便りや電話で、利用者の日常の様子を伝えている。事業所のサービスや職員の介護姿勢等について寄せられた意見や苦情を検証し、運営推進会議の場で公表しながら、実際のサービスに役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会の設置及び会議を開催し、職員の情報の共有や意見反映を行っています。人事考課制度を導入していることから、年3回職員個人の目標設定を意識向上に努めるとともに、面接の際には相談等も受け解決に向けてよう努めています。	月例のミーティングや申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には施設長、管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の会議や、給食・行事委員会の開催。事業所会議、俱知安地区職員合同会議など開催し、職員の意見や意向を聞く機会を設けております。人事考課の際には、職員一人ひとりと面接し、意見や思いなどを聞き出せる機会をもうけております。夏季及び冬期休暇の取得もしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部団体主催の研修会に参加を行うほか、各事業所が企画する内部研修会や法人内研修、町内グループホーム合同研修へ参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の各居宅介護支援事業所や介護施設等の職員が集まるケアカンファレンスに出席し、意見交換や情報交換を行っています。また町内外のグループホームへ視察研修や交流研修等を行ない情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前には、直接ご本人とコミュニケーションを兼ねた面接を行い、情報収集の機会を設けております。その際に、ご本人のご希望や思いなどを受け止められるよう努力を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、訪問や見学等の際には面接等を行い、お話を伺う機会を設けております。遠方の方の場合には、お電話でのご連絡をさせて頂くことや担当職員からの情報提供等も行うよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時やお電話での連絡時など、利用者様の近況をお話し情報を共有・把握し職員間での情報を共有することに努めています。ご家族様やご本人から相談を受けた場合、収集した情報を活かすことのできるよう支援させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の面接による情報や日々の情報収集から職員間で情報の共有を行い支援できるよう努めています。ここにいる事、必要とされている事や生きることの喜びや楽しみを感じて頂き職員も楽しみや苦しみ辛さや喜びを隣で共感しお互いが支えられる関係を築けるよう日々努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者様の心身の状態等の説明を行い、遠方のご家族様につきましてはお手紙やお電話などによりご説明しご家族様と一緒に利用者様の支援をさせて頂くよう努めています。毎月、行事やイベントの案内を作成し一緒に過ごして頂くお時間を作れるよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、ごゆっくり過ごして頂けるよう居室・リビング、一階部分の喫茶店に希望に合わせて支援させて頂いております。また、ご希望時にはご自宅の様子を見に行かれたり近所の方とのふれあえるよう支援させて頂いております。	家族、知人が来訪した際には、居室で寛いで過ごせるようにしている。馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て想いに添える様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、調理や清掃など入居されております利用者様が協力し支えあっているよう声掛けや見守りなど支援させて頂いております。食事等には職員も一緒に召し上がらせていただき利用者様間をつなぐ支援を行わせていただいたり、お茶の時間や各種行事などを企画・実施することにより交流を深められるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護施設や医療機関など求められている各機関への紹介やご案内など、退所されてからも安心した生活を送って頂けるよう支援させていただいております。ご希望時には入所申し込みの代行なども行い、関係を断ち切ることをしないよう支援させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などからご希望やご本人様の意向を収集しアセスメントを行い、できる限りご本人様の意向添えよう支援させていただくことが出来るように日々努めています。	意向の表出が難しい方であっても、しぐさ、表情から時間をかけて読み取り、利用者個々に合わせた方法で関係作り・アセスメントを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接による情報や、日々の会話など生活の中で情報を交換し、その方らしい生活を送って頂けるよう支援させていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でご本人様のご様子や状態を職員間で情報の収集を行い検討した中で、出来る事、出来ない事をチームで共有しよりよい支援の提供に努め利用者様にあった支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員とが話し合い計画を作成しております。概ね3か月ごとに評価を行い、必要時や身体状態が変られた場合は随時変更しております。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成しており、計画の見直しや日々の情報に役立てるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の付き添い・病院の付き添い・それに係る送迎など随時行っております。1階部分が喫茶店と地域コミュニティーの場になっておりご希望時には喫茶店へ行き、くつろいで頂くと共に地域の方との架け橋になれるよう日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、町内の各行事に参加したりすることで、地域の皆様との関係を継続したり、親交を深められるよう支援させていただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所前のかかりつけ医院への受診を行うて頂くことを基本としています。協力医療機関を定めているために夜間などの緊急時には受診も可能となっております。受診時は職員の付き添いを行いますので必要な情報の提供や医師からの助言等生活に役立てるよう支援しております。	本人、家族の意向を聞き取り、かかりつけ医への受診を原則とし、通院時には職員同行で支援している。個別に医療記録を作成し、医師、看護師からの助言と共に家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日看護師が勤務を行い、利用者様の健康状態や医療面での相談等を行っております。必要時には、受診の対応や医療機関との連絡調整を行い、より安心して生活を送って頂けるよう支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時に、入院先病院の医療連携室担当者を中心に担当医・看護師とのカンファレンスを実施しています。また、ご家族からのご相談やご意向も随時受け付けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	理念・基本方針を作成し職員に周知していると共にいつでも閲覧できるよう体制を整えています。実際に終末期と診断を受けた場合、医師・ご家族・ご本人様と職員で話し合い柔軟な対応を心掛けるよう努力していきたいと思っております。	契約時に重度化に関する事業所の指針を説明し、同意を得ている。重度化の際は、医療機関、家族と共に終末期を支えるための話し合いを行い、最善の対応となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、避難訓練等を実施し迅速に行動し早期対応を行えるよう実施しています。また緊急時搬送方法の確認やAEDの使用など事業所合同会議で確認をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほかに、会議後等の時間を利用して必要設備等の使用方法等を確認するとともに、日々防災意識を持つよう意識向上にも努めています。訓練時には、関係機関や近隣住民の方々も参加されています。	消防署の参加も得ながら、年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域住民には避難後の見守り等、役割もお願いしている。自家発電機、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当法人の個人情報保護に関する基本方針に従い業務に努めています。また、お預かりしている貴重品に関しては金庫にて保管しケース記録書類についても鍵付きの書庫に保管しております。	職員は法人の基本方針を基に、個人情報保護について学び、主に接遇・姿勢の具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応となるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや日々の会話等から思いや希望を見出し、ご本人様のご希望に沿った生活が営まれるよう、支援を行い安心して生活を感じて頂けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のリズムを大切に、日々声掛け等によりご希望等の確認を行い、ご希望に沿ったサービスを提供すると共に、職員間の情報の共有に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容を行って頂けるよう声掛けや、できない部分についての支援を行わせて頂いております。行きつけの商店や理、美容室等継続的に利用できます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が行える部分は協力を仰ぎ食事の下準備や調理、助言を頂くよう努めています。職員も利用者様と食事を一緒に召し上がらせていただくことにより、会話への支援や楽しい雰囲気作りになるよう同時に努めています。	職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、お互いに会話を楽しみながら、食事を支援している。また、好きな手伝いもお願いし、下準備から後片付けまでゆっくりと楽しめる時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に形態にあった食事を提供させていただき(嗜好に応じて代替え食の提供や、キザミ食やミキサー食の提供等)食事摂取量・水分量の記録を行い、特に水分補給量が少ない場合は、飲水を促すような声掛け等も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにより歯磨きや義歯の清掃などを行って頂いております。個別にスポンジブラシ等も使用し口腔内清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、出来るだけ残存機能を活かしてトイレで排泄して頂くよう支援させていただいております。また、排泄パターンを分析しオムツ外しへの取り組みも積極的に行っています。	チェック表を用い、個々のタイミングを時間で把握し、トイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の記録や水分の記録を行い、水分量が少ない時には利用者様の好みの飲み物等、提供し促しています。また、1日に体操やレクリエーションなど身体を動かす時間をつくり健康で過ごして頂けるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望がある場合は、毎日入浴して頂くことが可能です。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助や時間帯も利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂くため、プライバシーの配慮や室温の調整等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬シートに内容を書き出し、薬の把握に努めています。個人台帳には薬の情報も綴じられ職員がいつでも確認できるようになっています。また納豆やグレープフルーツ等の禁止食の方へも代替品を提供しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の居室の清掃や調理、配膳、下膳などを職員が声掛けし行って頂くよう支援させて頂いております。またケアプランに反映させることによって、意識的に支援していく事を職員にも徹底するようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り買い物等へ希望時に出かけられるよう支援させて頂いております。その他にも散歩の機会を設け、気分転換を図ると共に地域の方とのコミュニケーションも図れるよう支援しております。1階部分の喫茶店利用に関しても、喫茶店職員と連携を図り対応を行っています。	コロナ禍で外出が制限されるなか、感染防止に留意しながら個別に声掛けし、日課として出歩くように努めている。地域住民との交流や近隣のスーパーで「季節・旬」を感じる等、工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、ご本人で手持ち金を持たれています。管理が難しい方についてはお預かりし必要時にお渡ししています。使用した金額など聞き取りし帳簿につけて記録しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話機設置可能といる他、当事業所の電話の使用も可能です。ご希望時にはご家族様やご友人様に連絡可能となっております。事業所の迎えにポストもあり投函もご自分で行えるよう職員が付き添い支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は、季節を感じて頂けるよう季節にあった飾り付けなどの設えを行っていますが、過度には行わず落ち着いた雰囲気大切にしています。またご自宅で過ごして頂いているような雰囲気作りにも工夫しています。	事業所内は、ほぼ全スペースに手すりを設置しており、出来るだけ自立した生活を送れるよう見守り、支援している。また、ユニット間での利用者の行き来や、施設内の喫茶スペースでのコーヒー等、ちょっとしたお出かけなど楽しみを設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテレビを設置し利用者様同士やお一人でもご覧になっていただいたりお話を楽しんでいただけるよう配置をしています。食事を召し上げて頂く場所との共用のため、どちらも使って頂けるよう声掛けを行い過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の面積がゆるすぎたりは、ご本人とご家族様と相談し過ごしやすい家具の配置や使い慣れた家具の持ち込んで頂いております。火器をお持ち込みの場合には、事前の面接やお電話等で説明させていただき、ご理解を得て頂くよう努めています。	安心して自宅さながらの生活が続けられるよう、居室には家族の協力を得て、昔馴染みの家具や思い出ある物が持ち込まれおり、落ち着いた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	事業所内の廊下・トイレ・浴室等には手すりを設置し出来る限り自立した生活を送れるよう配慮を行っています。		